

## 第3章 権現山遺跡第25地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18mを測る。遺跡の範囲は南北300m、東西300m以上ある。

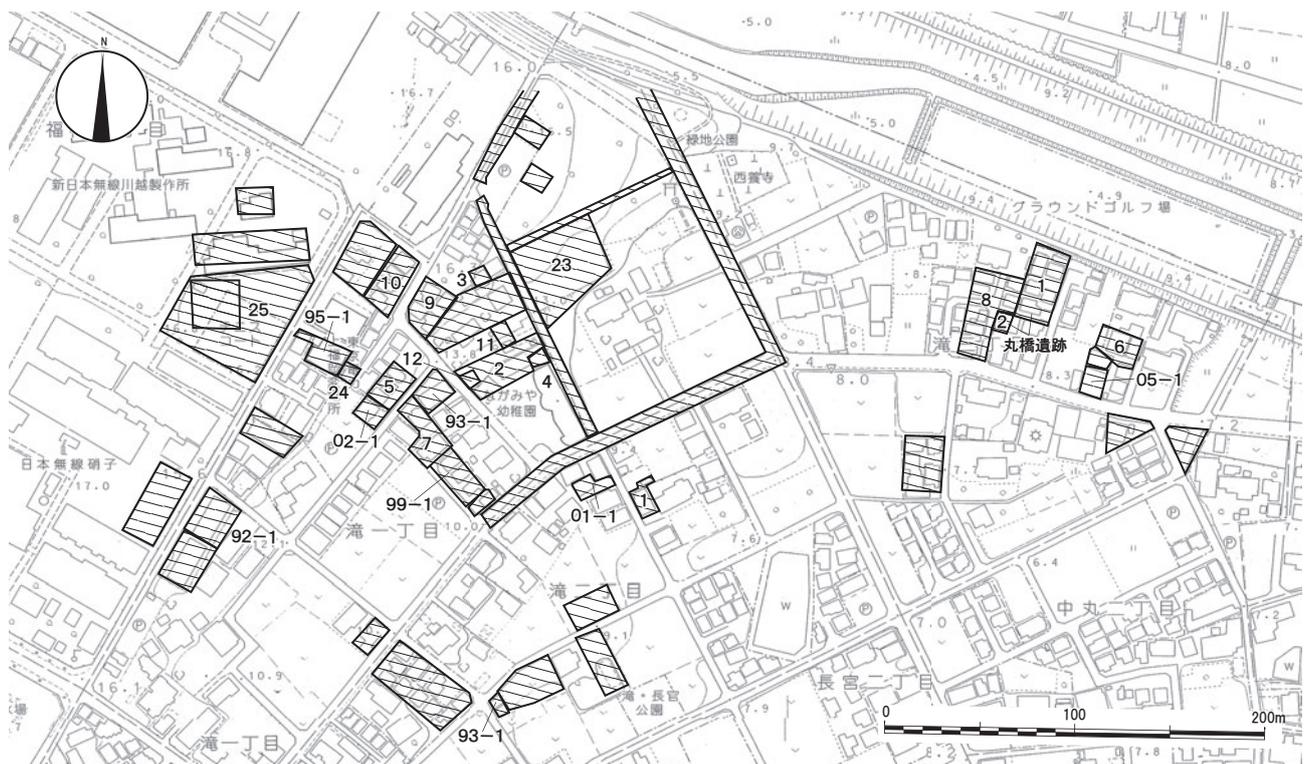
周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部立郎氏により「権現山といふ円形古墳」（安部1917）として紹介された。その後、1937年（昭和12年）に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。（山内1937）戦後は『埼玉縣史』（1951）、『古墳調査報告書—入間地区—』（1961）等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行われた通称「厄病塚」

（権現山北古墳群2M・3M）の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

一方、通称「権現山」（権現山古墳群2M）は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財（上福岡市）に指定された。資料上の初見は元禄12（1699）年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現社地」の記載があり、塚の上には天保11（1840）年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群（11基）が発見され、「権現山」はいわゆる前方後墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。1982年以来23ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡1、2、5～7、14、17地点へ変更した。



第13図 権現山遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第6表 権現山遺跡調査一覧表

地点番号	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	収録報告書
1	滝1-4-15	1980.6.27~7.3	76	個人住宅	古墳住居跡1、竈(旧滝3次)	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)
2	滝1-3-21	1980.7.20~31	330		遺構なし、中世以降陶器片(旧滝5次)	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)
3	滝3-4-7	1982.1.20~2.6	50	自転車置場設置(公共事業)	古墳方形周溝墓、壺形土器、縄文中期住居跡1、縄文土器多数	56年度教育要覧
	滝1-5-4	1982.12.8~28	200	範囲確認調査	古墳方形周溝墓6、古墳住居跡1	埋蔵文化財の調査(V) / 上福岡市史資料編1
4	滝1丁目5-4	1983.5.18~6.28	100	範囲確認調査	古墳住居跡1、方形周溝墓1	埋蔵文化財の調査(VI)
5	滝1-4-4	1984.5.11~22	466	住宅建設	溝2(旧滝9次)	埋蔵文化財の調査(VII) / 上福岡市史資料編1
6	滝1-3-17	1984.6.1~12	363	住宅建設	古墳住居跡1、溝4、土坑3(旧滝10次)	埋蔵文化財の調査(VII) / 上福岡市史資料編1
7	滝1-4-2	1984.6.28~30	33	物置建設	集石2、土坑2(旧滝11次)	埋蔵文化財の調査(VII) / 上福岡市史資料編1
8	大字福岡1500	1985.1.20~2.25		市道舗装工事	方形周溝墓2、古墳3、須恵器・壺形土器	59年度教育要覧 / 上福岡市史資料編1
9	滝1-4-8	1985.8.9~9.9	430	範囲確認調査	古墳住居2、平安住居2	埋蔵文化財の調査(Ⅳ)
10	滝1-5-9.10	1986.2.10~22	202	範囲確認調査	第2周溝墓の前方形部の調査	埋蔵文化財の調査(Ⅳ)
11	福岡3-1187-4	1988.6.7~6.14	3,200	工場増築	古墳1、奈良・平安住居跡4	
12	滝1-6-7	1989.2.20~3.6	2,000	農地改善工事	古墳住居跡3、方形周溝4、古墳溝跡1、中世大溝跡1、時期不明溝跡1	埋蔵文化財の調査(11) / 上福岡市史資料編1
	滝1-6-1	1989.5.8~	1,724	農地改善工事	方形周溝4	H1年度教育要覧
13	滝1-5-4	1993.7~8		範囲確認調査	2号墳、11号墳のトレンチ調査	上福岡市史資料編1
14	滝1-3-13	1995.11.27~30	462	共同住宅	なし(旧滝試掘)	埋蔵文化財の調査(18)
15	滝1-4-3	1996.4.15~5.7	396	個人住宅	古墳住居跡1軒、溝1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(19)
16	滝1-3-49	2002.5.29~30	165	個人住宅	なし(旧滝試掘)	埋蔵文化財の調査(25)
17	滝1-3-16	2004.5.17~27	856	範囲確認調査	奈良堅穴住居跡2(16、17号)【調査済み】	埋蔵文化財の調査(27)
18	滝1-5-4	2006.4.25~27		古墳群保存整備工事		
19	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
20	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
21	字福岡2-1500-23(工場内)			工場増築		
22	滝1-3-58~60			住宅建設		
23	滝1-6-7	2008.10.23~29	1,576	古墳群保存整備	土坑3、集石1、須恵器、土器	市内遺跡群6
24	滝1-3-25	(2013.5.17)	90	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
25	福岡2-1-1	(2014.6.2~7.18) 2014.7.22~9.2	3,588	事務所	縄文時代の炉穴2・土坑1 古代住居跡3・溝3、須恵器・土師器	市内遺跡群16
26	滝1-3-23	(2015.11.30)	97	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

第7表 権現山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

新住居番号	旧調査年度	調査名	調査率	平面形( )は推定	規模( )は残存又は推定値	炉		炉・カマド規模		周溝	主軸方向	時期	備考	文献
						竈・K	設置壁・炉位置	長軸	幅					
1	1937	1937年調査α住居										古墳前期	1937年山内清男先生調査	市史資料編第1巻
2	1937	1937年調査β住居										古墳前期	1937年山内清男先生調査	市史資料編第1巻
3	1937	1937年調査γ住居										古墳前期	1937年山内清男先生調査	市史資料編第1巻
4	1937	1937年調査δ住居										古墳前期	1937年山内清男先生調査	市史資料編第1巻
5	1937	1937年調査ε住居										古墳前期	1937年山内清男先生調査	市史資料編第1巻
6	1937	1937年調査ζ住居										古墳前期	1937年山内清男先生調査	市史資料編第1巻
7	1980	旧滝第3次調査5号住居	1/2	隅丸方形	(360)×(260)×30	—	—	—	—	○	(N-11-W)	4世紀前半	カマド未検出	埋蔵文化財の調査Ⅲ
8	1982	第1次調査2号住居	完掘	隅丸長方形	400×320×20	—	—	—	—	—	N-60-W	4世紀前半	焼失住居、カマドは残存していない	埋蔵文化財の調査Ⅴ
9	1983	第2次調査3号住居	1/4	(隅丸長方形)	(560)×(470)×30	炉	中央北寄り	(48)	(18)	○	N-30-E	古墳前期	床面硬化	埋蔵文化財の調査Ⅵ
10	1984	旧滝第10次調査11号住居	完掘	隅丸方形	445×(380)×35	K	北	(115)	95	○	N-5-W	6世紀前半	北西部に方形貯蔵穴 55×40×44	埋蔵文化財の調査Ⅶ
11	1985	第4次調査4号住居	1/4	(隅丸長方形)	(425)×(175)×20	—	—	—	—	○	(N-5-E)	4世紀前半	南西部に方形貯蔵穴 60×20×20 カマド未検出	埋蔵文化財の調査Ⅷ
12	1985	第4次調査5号住居	1/4	不明	(260)×(150)×45	K	北東隅	(121)	(121)	○	(N-57-E)	9世紀	覆土より鉄滓出土、小鍛冶関連住居か床面硬化	埋蔵文化財の調査Ⅷ
13	1985	第4次調査6号住居	一部	不明	不明	—	—	—	—	—	不明		床面のみ確認、カマド未検出	埋蔵文化財の調査Ⅷ
14	1986	第5次調査7号住居	(1/4)	不明	(225)×(215)	—	—	—	—	○	不明	4世紀前半	東部に長方形貯蔵穴 55×35 カマド未検出	埋蔵文化財の調査Ⅷ
15	1988	1988年調査1号住居	完掘	正方形	290×290×25	K	北	90	50	○	N-1-E	8世紀前半	床面に多量の炭化材、焼失住居	埋蔵文化財の調査11
16	1988	1988年調査2号住居	完掘	方形	340×320×30	K	東	150	80	○	S-74-E	8世紀前半		埋蔵文化財の調査11
17	1988	1988年調査3号住居	完掘	長方形	370×450×20	K	東	(70)	90	○	N-2-E	8世紀前半	床面に多量の炭化材、焼失住居	埋蔵文化財の調査11
18	1988	1988年調査4号住居	完掘	方形	310×320×30	K	北	135	90	○	N-6-E	8世紀前半		埋蔵文化財の調査11
19	1989	1989年調査12号住居	完掘	(隅丸長方形)	550×(460)×40	炉	中央北寄り	60	50	○	N-10-E	古墳前期	(4本主柱穴)	市史資料編第1巻
20	1989	1989年調査13号住居	完掘	(隅丸長方形)	(648)×480	炉	中央北寄り	36	24		N-37-W	古墳前期		市史資料編第1巻
21	1996	第9次調査9号住居	1/5	(隅丸方形)	不明	—	—	—	—	○	不明	古墳前期	焼失住居か、床面硬化 カマド未検出	埋蔵文化財の調査19
22	1999	1999年調査15号住居	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	不明	古墳前期	未報告、詳細不明	
23	2004	2004年調査16号住居	完掘	方形	350×360×50	K	東	122	102	○	N-79-E	8世紀前半	床面硬化	埋蔵文化財の調査27
24	2004	2004年調査17号住居	完掘	方形	320×290×(10)	K	北	(72)	85	○	N-13-W	8世紀前半	床面硬化	埋蔵文化財の調査27
25	2014	H18号住居	一部	不明	不明	—	—	—	—	○	不明		カマド未検出	市内遺跡群16
26	2014	H19号住居	完掘	方形	283×280×35	K	西	78	(50)	○	N-78-W		床面硬化	市内遺跡群16
27	2014	H20号住居	完掘	隅丸方形	370×385×35	K	西	113	(70)	○	N-76-W		床面硬化	市内遺跡群16



第14図 権現山遺跡遺構分布図 (1/2,000)

## II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は事務所建設に伴うもので、原因者より2014年4月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

試掘調査は6月2日から7月18日まで行い、幅約1.5mのトレンチ21本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。試掘調査に係わる重機とオペレーターについては日本無線㈱の提供と協力を得た。

試掘調査の結果、縄文時代の炉跡と古代の住居跡、火工廠の跡などを確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約110cmで、遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は遺跡の確認された部分を、2014年7月22日から8月29日まで人力による調査を行い、同日重機で埋め戻し、9月2日に重機を搬出して全ての調査を終了した。

調査区内に5m方眼の区画を設定し、西端の杭から時計回りに1～6の番号を付した。

試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の炉穴2基、土坑1基、古代の住居跡2軒、火工廠の遺構などである。遺物は縄文土器と石器、火工廠関連の遺物などである。

## III 遺構と遺物

本書では試掘調査および本発掘調査で確認された縄文時代と古代の遺構と遺物について報告する。火工廠に関する遺構と遺物については改めて報告することとし、遺構の写真のみ掲載する。

### (1) 縄文時代の遺構と遺物

炉穴と土坑は出土遺物から縄文時代に属する。溝は時期不明であるが古代以降とみられる。

#### ① 炉穴

炉穴2基はトレンチ7で検出した。

【炉穴1】炉穴1は土坑1と重複し、炉穴1が古い。土坑に切られ、調査区外に延びるため全容は不明である。検出部の規模は66×55cm、深さ45cmである。焼土範囲は楕円形で50×25cmである。

【炉穴2】炉穴2は土坑1と溝1に重複し、炉穴2が最も古い。焼土範囲は円形を呈し、検出部の規模は

55×44cm、深さ12cmである。焼土範囲は楕円形で52×44cmである。

### (2) 古代の遺構と遺物

#### ① H 18号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北東端のトレンチ2に位置する。火工廠による攪乱を受ける。開発による遺跡への影響がないため、住居跡の一部を確認したのみである。竈は未検出である。住居の覆土層から数点の遺物が出土しており、出土遺物から古墳時代以降とみられる。

【形状・規模・掘方】形状、規模共に全容は不明である。平面形態は方形または長方形と推定される。規模は南北330cm以上、東西ともに340cm以上で、深さ55cmである。

【周溝】周溝は北壁際と西壁際で確認した。上幅10～20cm、下幅5～10cm、深さ5.4～16.4cmである。

#### ② H 19号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の西端に位置し、H20号住居跡とは1.5mしか離れていない。出土遺物から7～8世紀前半頃とみられる。

【形状・規模・掘方】平面形態は方形を呈する。規模は長軸(主軸)285×短軸280cm、深さ30cmである。

住居跡の床面は壁際を除いて硬化面が広い範囲にみられる。住居跡の掘方は、方形にほぼ平坦に掘り窪めた後、約5～15cmの黒褐色土を含む暗褐色土で貼床を行う。柱穴はみられない。

【竈】住居跡西壁の中央部に構築され、竈覆土層には僅かに構築部材の灰色粘土がみられる。右袖部分は攪乱により破壊されている。推定の長軸80cm、袖部の最大幅52cmである。竈内部は幅40cm、奥行き55cmで床面からはほぼ平坦である。

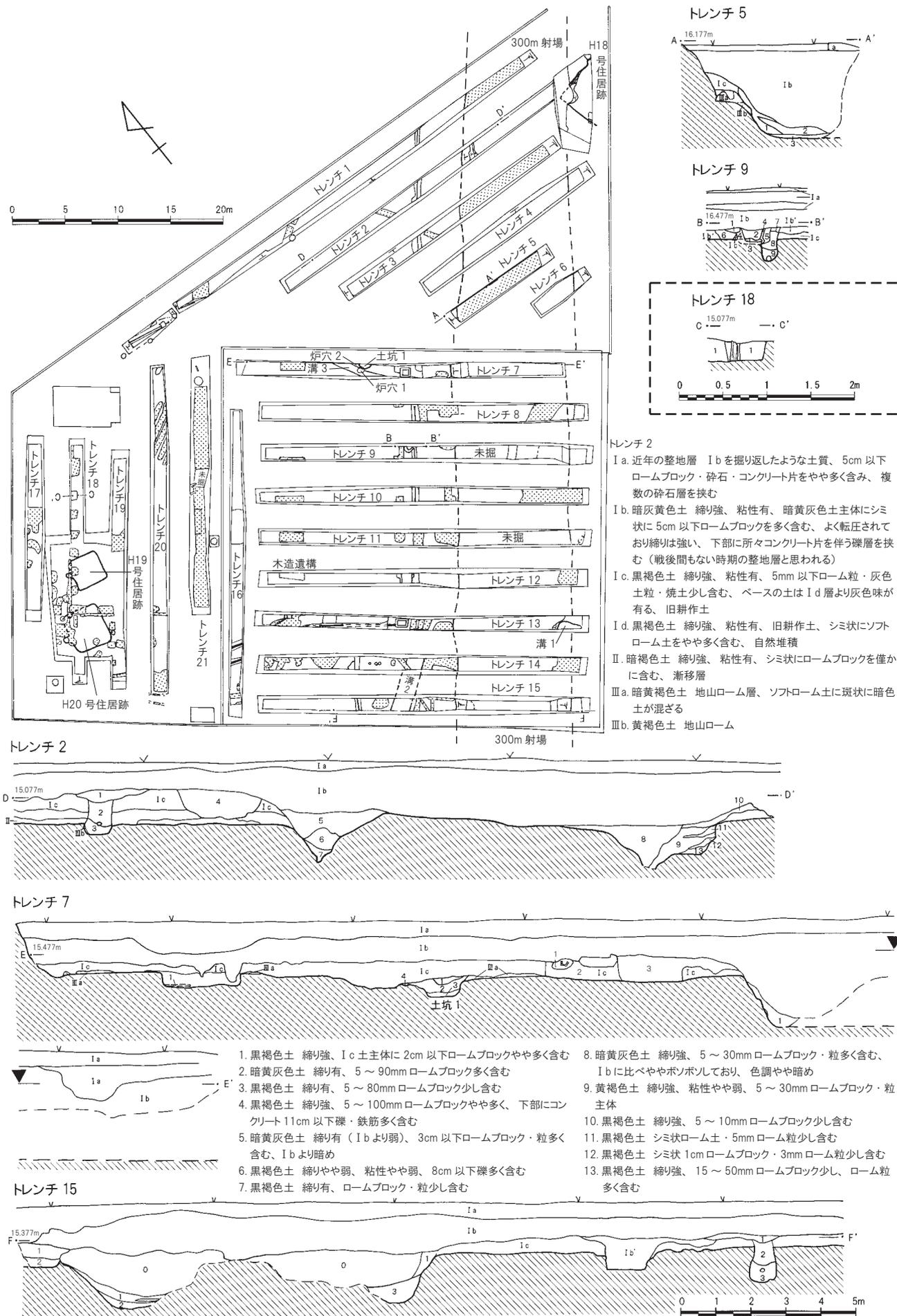
【周溝】竈の周辺と住居内北西隅にはみられないが、他は壁際にかけて存在する。上幅7～20cm、下幅3～10cm、深さ2.1～12.1cmである。

【遺物出土状況】竈内と、床面硬化範囲から覆土層にかけて僅かに出土する。

#### ③ H 20号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の西端に位置し、H19号住居跡とは1.5mしか離れていない。出土遺物から7～8世紀前半頃とみられる。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈する。火工廠の建物の基礎などによる破壊を受ける。規模は長軸380cm、短軸(主軸)375cm、深さ35.9cmである。



第15図 権現山遺跡第25地点遺構配置図(1/500)、土層(1/60・1/150)

住居跡の床面は南北の壁際を除いて、東壁から竈にかけて硬化面が広い範囲にみられる。住居跡の掘方は、ドーナツ状に床面中央部が高く壁際を深く掘り窪めた後、約5～18cmの黒褐色土と暗褐色土で貼床を行う。

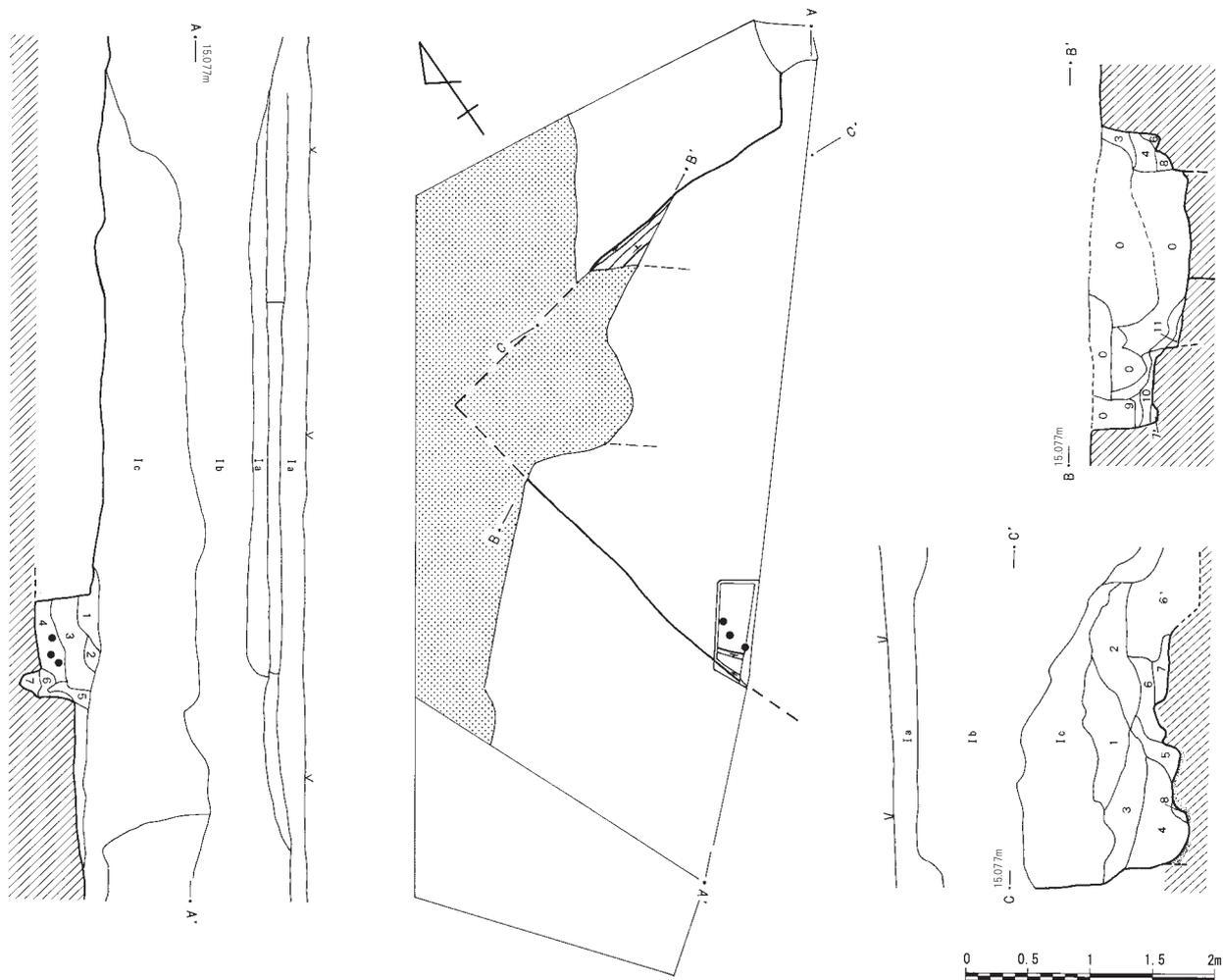
【ピット】ピット1は南壁際に位置する。平面形態は楕円形で規模は確認面径25×20cm、底径13×6cm、深さ52.7cmである

ピット2は東壁際の周溝内側に位置する。平面形態は円形で規模は確認面径25cm、底径15～16cm、深さ55cmである。

【焼土跡】住居跡床面中央部に、円形の焼土跡が2ヶ所確認された。焼土跡1は西側に位置し、直径22～24cmである。焼土跡2は東側に位置し、直径18～20cmである。

【竈】住居跡西壁の中央部に構築され、近代の攪乱を受け残存状態は悪い。竈の中央部の奥壁と燃焼面を検出した。残存部の長軸115cm、竈内部は残存幅60cm、奥行き92cmで床面からの深さは16cmである。

【遺物出土状況】住居跡中央部の床面から覆土層を中心に多数の遺物が出土する。



A-A'・B-B'

1. 暗灰黄色土 締り強、粘性有、シミ状に黒褐色土・5～10mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味が有る、5mmロームブロック・2mm以下の微細ローム粒少し含む
3. 暗灰黄色土 締り強、粘性有、5～40mmロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒多く、5mm以下黒色土少し、2mm以下焼土僅かに含む
4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3層より黒色味強い、5mm以下ローム粒多く含む、5～20mm黒色土少量だが目立つ、2mm焼土僅かに含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、混入物は少ない
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm焼土僅かに含む、混入物は少ない、周溝状に落ち込みが見られる
7. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に黒褐色土含む
- 7'. 黄褐色土 黒褐色土ベースに1cm以下ロームブロック・粒主体
8. 黒褐色土+黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体にブロック状のローム土を多く含む
9. 赤褐色土 締り強、焼土主体

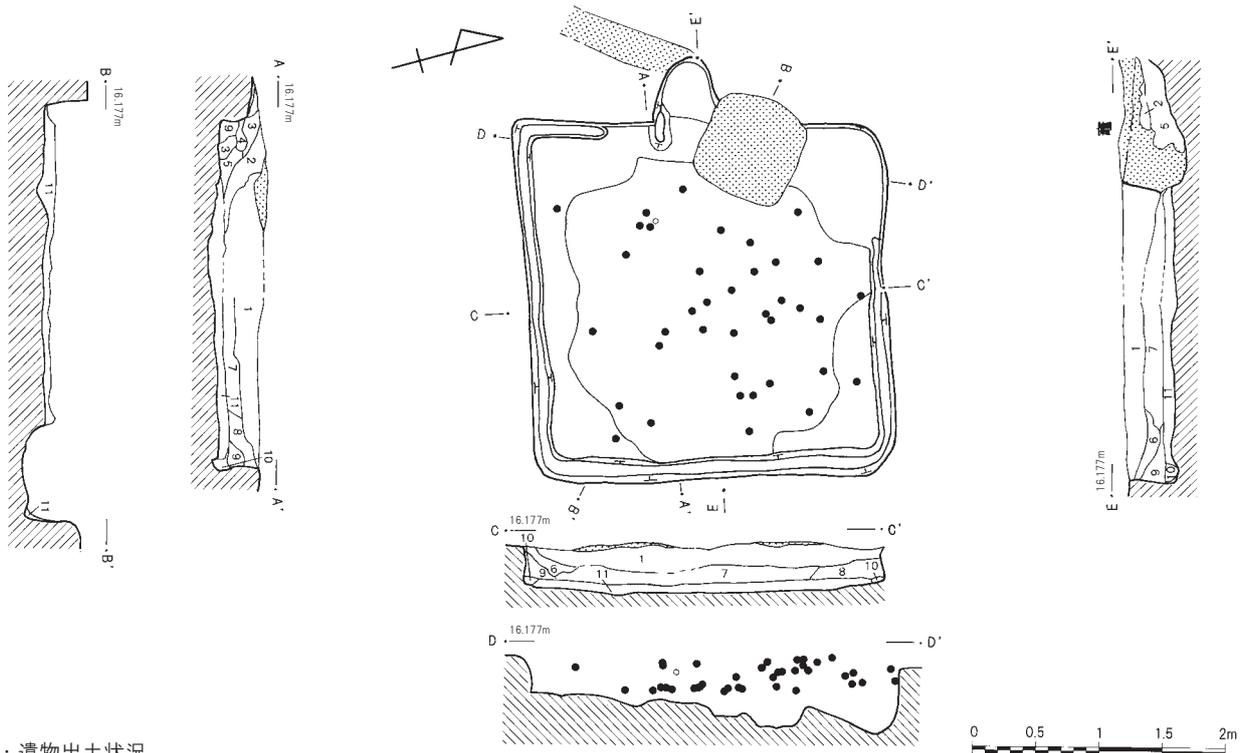
10. 黒褐色土 締り強、黄灰色味が有る、3mm以下ローム粒少し含む
11. 黒褐色土 2mm以下ローム粒・焼土少し含む

C-C'

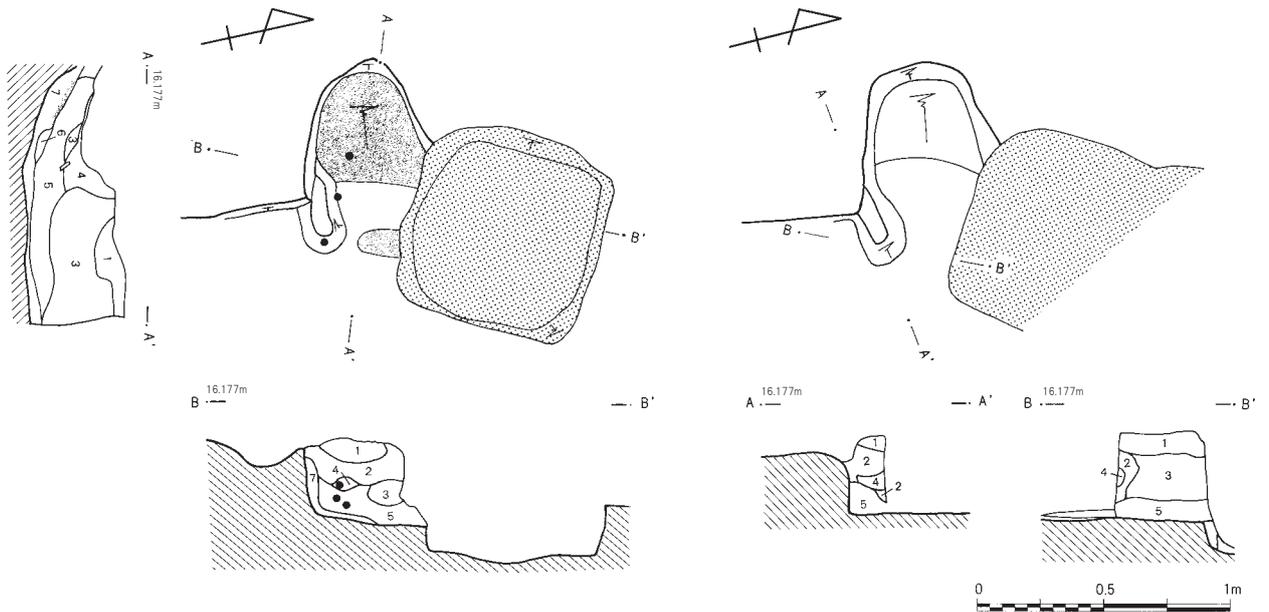
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、シミ状の3cm以下ロームブロック・5mm以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、シミ状の15mm以下ロームブロック少し、3～5mmローム粒やや多く含む
4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック・粒少し含む
6. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
- 6'. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5～100mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下焼土やや多く含む

第16図 権現山遺跡第25地点H18号住居跡・遺物出土状況(1/60)

H19号住居跡・遺物出土状況



竈・遺物出土状況



H19号住居跡

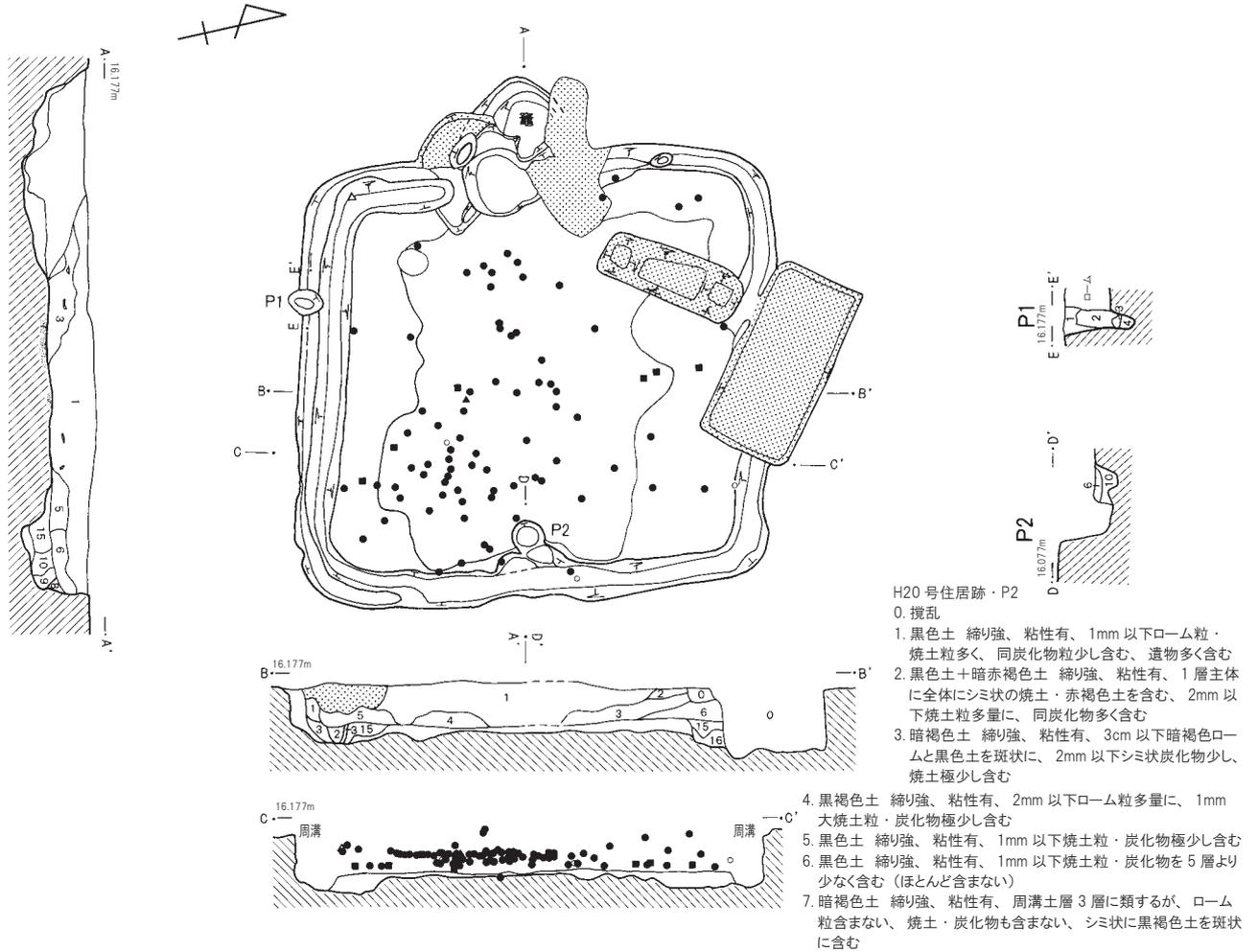
1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多量、同焼土少し、同炭化物やや多く含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・炭化物、5mm以下焼土・白色粘土多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下白色粘土・焼土多量に、2mm以下炭化物やや多く含む
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、粘土の塊で3mm以下シミ状黒褐色土少し含む、焼土・炭化物含まない
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層に基本同じ、焼土を含む割合が少なく、2mm以下である
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体で2mm以下ローム粒少し含む、焼土・炭化物ほとんど含まない
7. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土・炭化物を同程度やや多く含む（1層より黒色）
8. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・炭化物を少し含む、焼土はほとんど含まない
9. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム崩落土主体に3mm以下黒色土少し含む、炭化物含まない
10. 暗褐色土 締り弱、粘性有、9層にほぼ同じ、黒褐色土が9層より少ない
11. 褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に1cm以下シミ状・ブロック状に黒褐色土を少し含む（貼床）

竈

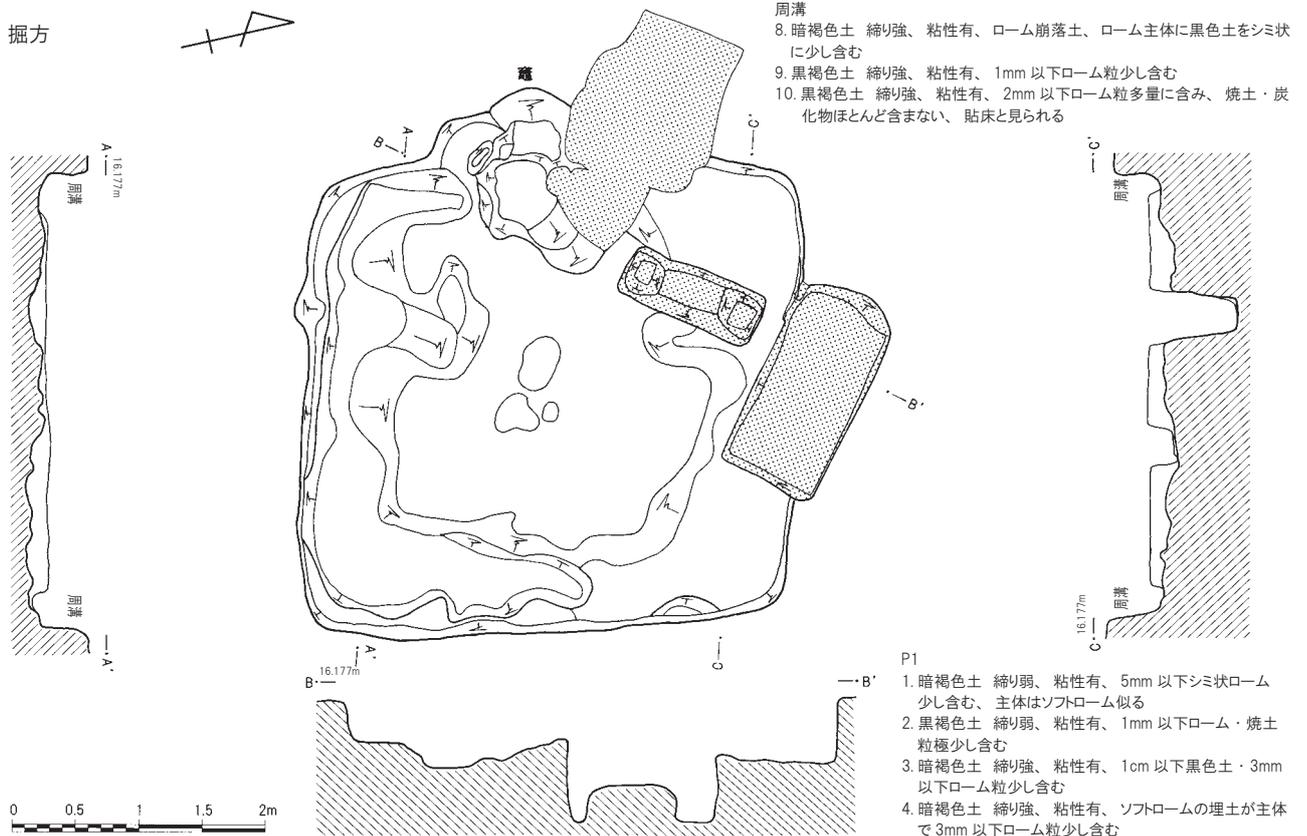
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、シミ状に砂をやや多く含む、焼土・炭化物は含まない
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下暗褐色土多量に5mm以下シミ状焼土少し、2mm以下シミ状炭化物少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下暗褐色土を下層に多く上層少なく、5mm以下焼土粒・炭化物2層より多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、粘土質の竈構築土ブロック、シミ状に2mm以下黒褐色土少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、4層と同じ粘土構築土で5mm以下焼土粒多く、同炭化物やや多く含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土少し、同炭化物極少し含む
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土を多く含む燃焼面、1cm以下焼土多く、5mm以下炭化物極少し含む、ローム主体

第17図 権現山遺跡第25地点 H19号住居跡・遺物出土状況 (1/60)、竈 (1/30)

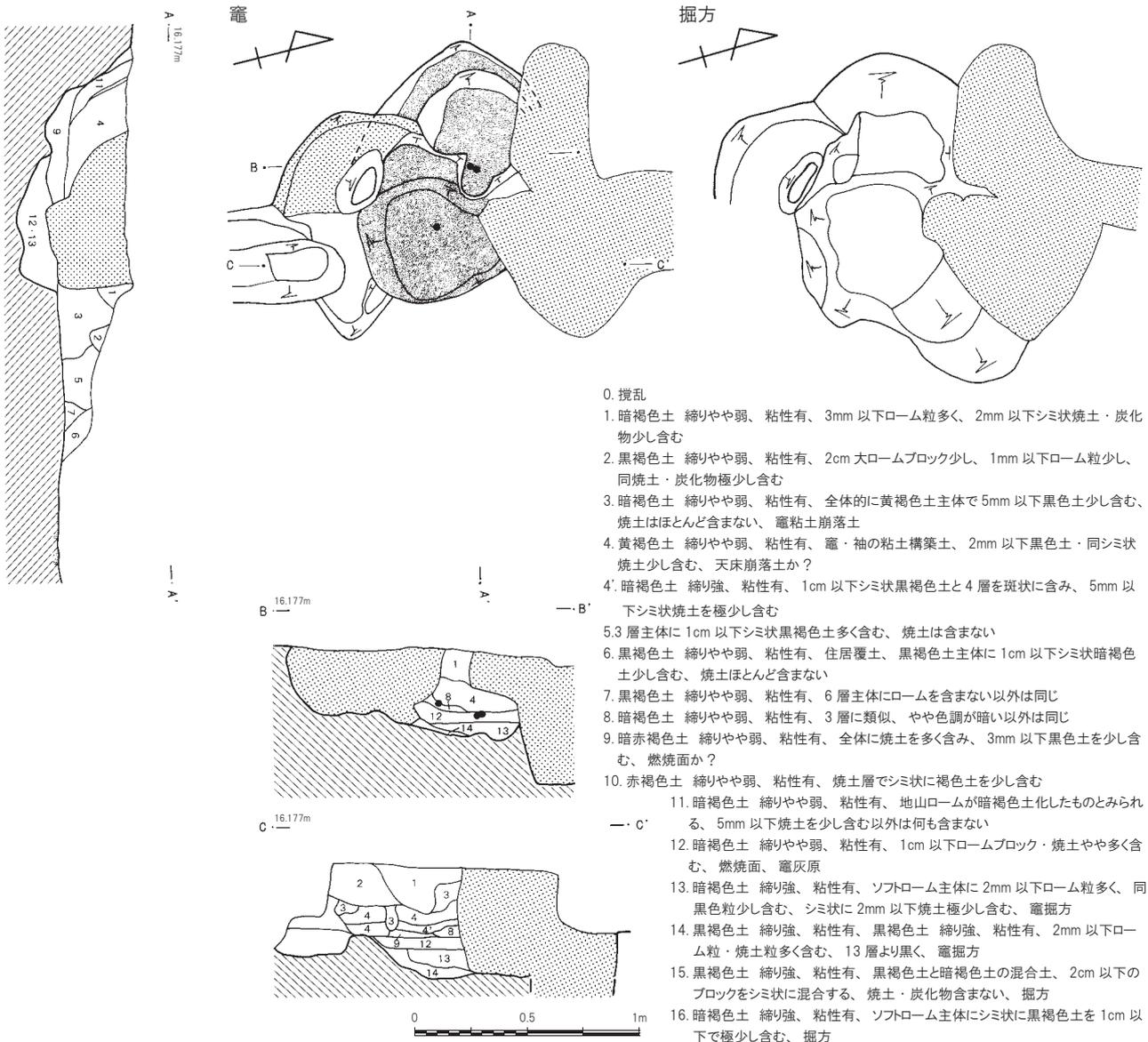
H20 号住居跡・遺物出土状況



掘方



第 18 図 権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡・掘方・遺物出土状況 (1/60)



- 0. 攪乱
- 1. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、3mm以下ローム粒多く、2mm以下シミ状焼土・炭化物少し含む
- 2. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、2cm大ロームブロック少し、1mm以下ローム粒少し、同焼土・炭化物極少し含む
- 3. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、全体的に黄褐色土主体で5mm以下黒色土少し含む、焼土はほとんど含まない、竈粘土崩落土
- 4. 黄褐色土 締りやや弱、粘性有、竈・袖の粘土構築土、2mm以下黒色土・同シミ状焼土少し含む、天床崩落土か？
- 4'. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状黒褐色土と4層を斑状に含み、5mm以下シミ状焼土を極少し含む
- 5. 3層主体に1cm以下シミ状黒褐色土多く含む、焼土は含まない
- 6. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、住居覆土、黒褐色土主体に1cm以下シミ状暗褐色土少し含む、焼土ほとんど含まない
- 7. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、6層主体にロームを含まない以外は同じ
- 8. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、3層に類似、やや色調が暗い以外は同じ
- 9. 暗赤褐色土 締りやや弱、粘性有、全体に焼土を多く含み、3mm以下黒色土を少し含む、燃焼面か？
- 10. 赤褐色土 締りやや弱、粘性有、焼土層でシミ状に褐色土を少し含む
- 11. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、地山ロームが暗褐色土化したものとみられる、5mm以下焼土を少し含む以外は何も含まない
- 12. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、1cm以下ロームブロック・焼土やや多く含む、燃焼面、竈灰原
- 13. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム主体に2mm以下ローム粒多く、同黒色粒少し含む、シミ状に2mm以下焼土極少し含む、竈掘方
- 14. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土粒多く含む、13層より黒く、竈掘方
- 15. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土と暗褐色土の混合土、2cm以下のブロックをシミ状に混合する、焼土・炭化物含まない、掘方
- 16. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム主体にシミ状に黒褐色土を1cm以下で極少し含む、掘方

第15図 遺構配置図トレンチ土説

トレンチ5

- I b. 暗褐色土 締り強、6cm以下ロームブロック多く、8cm以下礫少し含む
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、色調灰色味有る、シミ状にソフトローム土少し含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、色調灰色味有る、腐食したアルミ・ガラス・樹脂性の遺物・コンクリート片多く含む
- 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロックやや多く含む

トレンチ7

- 1. 礫が集中する範囲
- 土坑1
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土少し含む
- 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、15mm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒・5mm以下焼土少し、僅かに縄文遺物を含む
- 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1cm以下ソフト質ロームブロック・粒やや多く含む
- 4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・焼土やや多く含む

火工廠関連

- ① 黒褐色土 締り強、粘性有、常滑系土樋に伴う掘方の覆土、5mmローム粒・コンクリート片やや多く含む
- ② 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に大型のソフトロームブロックを多く含む
- ③ 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・3cm以下礫やや多く含む、②を切る

トレンチ9

- I b'. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~50mmソフトロームブロックやや多く含む、耕作土
- 1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、コンクリート片・最大12cmの礫少し含む
- 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5~50mmロームブロック多く含む、I bに似る
- 3. 黒灰色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、酸化土目立つ5cm礫少し含む、下部に薄板材(桶の底板)残存
- 4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む、充填土
- 5. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック・粒多く含む、充填土

- 6. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く含む、土管の破片が見られる為、埋設管の掘込みと考えられる
- 7. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く含む、I b'に似る
- 8. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土(I c土)ベースに1cm以下ロームブロック主体
- 9. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム土ベースに、7cm以下ロームブロック主体

トレンチ15

- I b 暗黄灰色土 締り強、I c土ベース、最大12cmロームブロックやや多く含む、材多い
- I d. 灰色味有る
- 0. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、I b層に似るが、平均5cm以下最大10cmロームブロック多く含む、色調は暗め、締り弱め、シミ状に黒褐色土少し含む

トレンチ18

- 1. 礫が集中する範囲
- 2. 暗黄褐色土 締り有、粘性有、暗黄灰色土主体に3cm以下ロームブロック・粒多く含む、シミ状に黒褐色土少し含む
- 3. 黄褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ローム土・ローム粒主体、10cm以下ロームブロック多く含む、下部に粗粒の暗褐色土を含む
- ① 黒褐色土 締り強、粘性有、5~30mmロームブロック少し含む
- ② 黒褐色土 締り強、粘性有、10cm以下ソフトロームブロックやや多く含む
- 埋設管
- 1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・3cm以下礫・黄褐色砂多く含む
- 2. 黄褐色土 締り強、粘性有、暗黄灰色土ベースに9cm以下ロームブロック主体
- 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、9cm以下ロームブロックやや多く含む

トレンチ18

- 1. 材を伴う土坑(火工廠時代かそれ以前)やや灰色味の有る黒褐色土 締り強、ソフトローム土・ロームブロックを多く含む

第19図 権現山遺跡第25地点 H20号住居跡竈・掘方・遺物出土状況(1/30)

②土坑

土坑は炉穴1・2と重複し、土坑が新しい。調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形態は隅丸の方形か長方形とみられる。検出部の規模は125×85cm、深さ66cmである。

③溝

【溝1】調査区南部のトレンチ13に位置し、一部を検出した。時期は古代以降とみられる。断面形態は「V」字状で、上幅70cm以上、下幅10cm以上で深さ55cmである。

【溝2】調査区南部のトレンチ14・15に位置し南側は調査区外に延び、北側は攪乱のため不明である。時期は古代以降とみられる。断面形態は浅い「V」字状で、上幅185cm、下幅20～35cmで深さ53cmである。

【溝3】調査区中央部のトレンチ7に位置し、一部を検出した。時期は古代以降とみられる。断面形態は浅い「U」字状で、上幅65～90cm、下幅38～66cmで深さ20.7cmである。

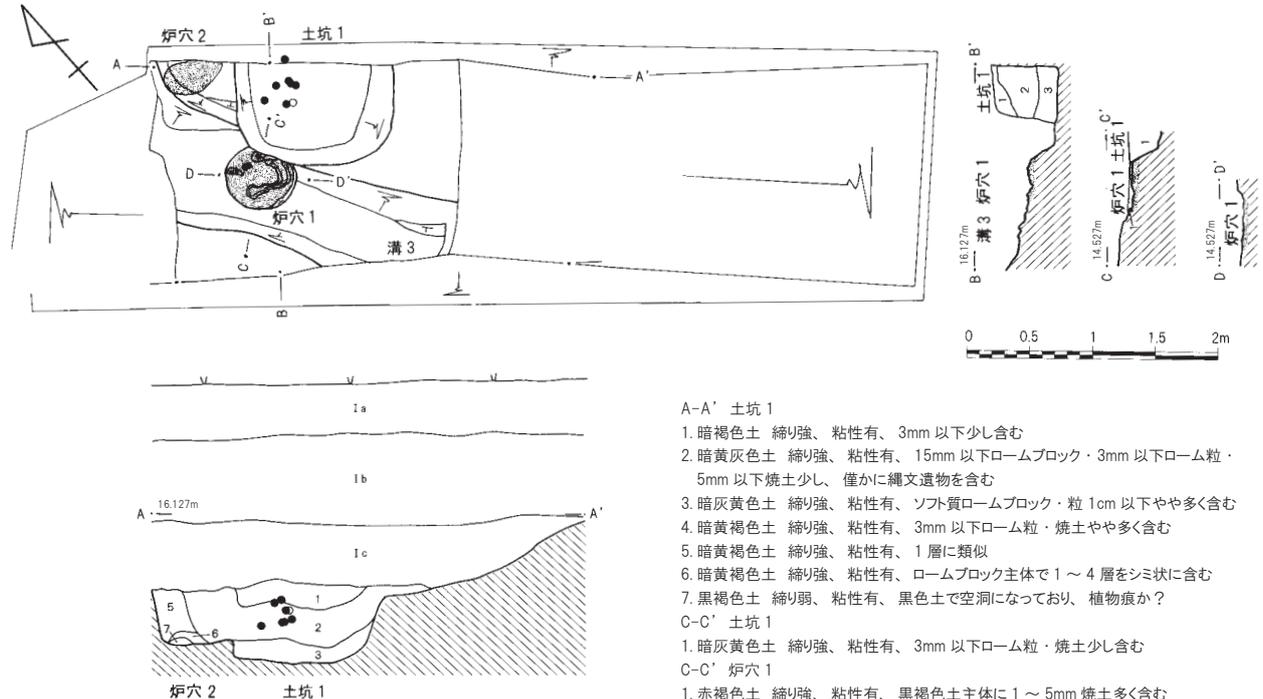
④火工廠の遺構

火工廠の遺構は、300m射場跡や金属製の配水管の他に、木造遺構がトレンチ12で検出された。

300m射場跡は幅約10.5～11m、深さは現地表面から310cmである。アルミ製プレートが多数出土した。

木造遺構は土坑内に木製の10cm角の角材を組んだ

炉穴1・2・土坑1・溝3



第20図 権現山遺跡第25地点炉穴・土坑(1/60)

遺構である。角材の接合には鋸の使用が確認されたが、釘の使用は不明である。土坑の規模は一辺230cm、深さ55cm以上である。木材の材質は不明。

④出土遺物

【H18号住居跡出土遺物】1は須恵器杯。口径17cm。器高3.7cm。底径10.5cm。現存1/2。底部は3回の回転ヘラ削りで丸く、下方に突出する。色調青灰色で、胎土に3～5mmの石英と白色針状物質を含む。

2は土師器大形椀。口径18cm。1/12現存。口縁部外面はナデ上げの整形後、胴部との境を右方向に横ヘラ削り調整。内面は木口状工具でナデ上げ調整。

【H19号住居跡出土遺物】3は環状つまみ付の須恵器蓋。環状径5.2mm。口径16cm。器高3.1cm。1/5現存。環状のつまみは内湾して先端を立上げ、環状内面は螺旋状の水引き痕が著しい。器面外側の肩部に回転ヘラ削りを施す、色調は青灰色で、胎土に3～5mmの石英と白色針状物質を含み、H18号住居跡出土の杯(第22図1)に類似する。

4は土師器杯。口径13.7cm。器高3.5cm。3/4現存。口唇部は緩く外湾し先端を尖らせ、底部内面に輪積み凹凸痕が残る。内面は木口状工具で強く横ナデを施す。色調黄褐色で白色針状物質を含む。

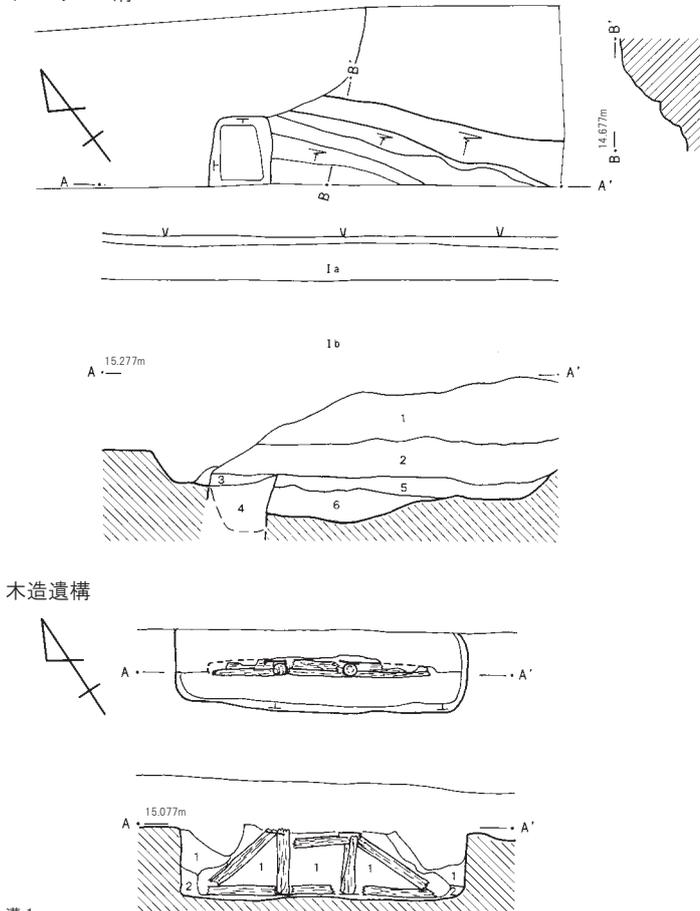
5は土師器長胴甕。口径24cm。全周現存。胴部1/4現存。口唇部は強く外湾し先端を丸く肥厚させ、口縁の器面に指頭の押圧痕が残る。胴部上半では、垂

直に縦ヘラ削り、胴下半は斜め下方にヘラ削りを施し、4mm以下に薄く仕上げている。図示の胴下端に輪作り技法の接合段差がある。色調は白黄褐色で胎土に黒・茶色の1mm大の粒子が混じる。6は土師器長胴甕。口径24cm。1/4現存。口唇部は強く外湾し先端をつまみ上げて尖らせている。口縁部を横ナデした後、胴部下方から上方へヘラ削り、一部口縁部まで及ぶ。内面は木口状工具でナデ上げている。木口状工具はハケ目状の木目痕が付いている。色調暗褐色。7は長胴甕の底部破片。底部の角から胴部上方3cmほどの範囲に、縦方向のヘラ削りから横方向のヘラ削りになる。8も底部外面に2段にわたる横方向のヘラ削りを施す。

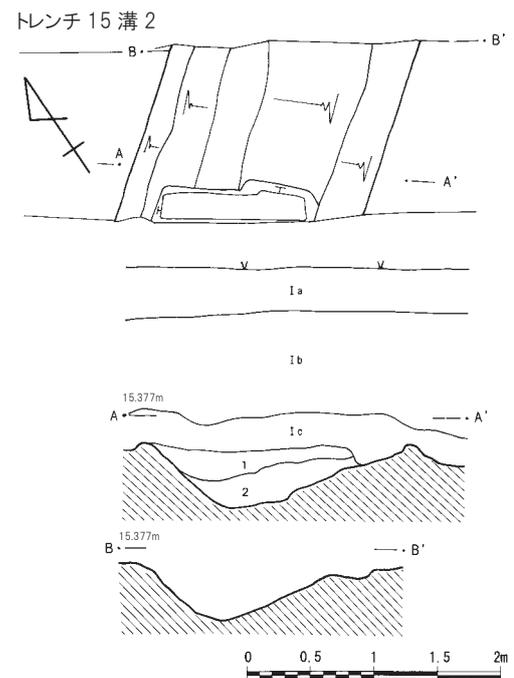
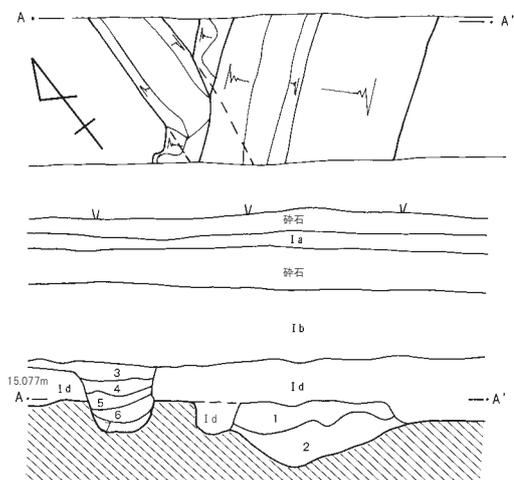
9～13は住居跡の覆土に混在した縄文土器。9～トレンチ13溝1

12は繊維を含む黒浜式土器。9は細いLr燃糸文を施文。10は軸繩LRにrを付加した羽状縄文。11は無節RIを横位に回転施文。12の地文は、Lr無節縄文を横位に施文後、幅3mmの半截竹管で口唇部に沿って2本の平行沈線文とLr縄文を施す。13は加曽利EⅢ式の口縁部先端を欠落した浅鉢。欠落した割れ口に輪積みの接合を強固にする刻みがある、地文LR縄文。

【第20号住居出土遺物】14は環状つまみ付の須恵器蓋。環状径5.3mm。口径16.3cm。器高3.1cm。完存。環状のつまみは外側に先端が尖り気味。環状つまみ内面は皿状に凹む。器面外側の肩部に回転ヘラ削りを施す、色調青灰色で、胎土に3-6mmの石英と白色針状物質を多量に含む。15は須恵器坏。口径15.7cm、トレンチ14溝2



1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～30mmロームブロック少し含む、やや灰色味が有る、耕作土
  2. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
  3. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、1cm以下ロームブロック・粒僅かに含む、2層よりやや暗め
  4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック主体
  5. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5～40mmロームブロック・2mm以下ローム粒やや多く、水成堆積の様相を呈す、2層より黒色味強い
  6. 暗灰黄色土 締り強、粘性有、ややシルト質、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 溝2
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～30mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
  2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2～3cmロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む
  3. 黄白色シルト 締り強、粘性弱、暗褐色土の5～10mm厚薄層を挟む
  4. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、黒褐色土主体に5mmロームブロック多く、砂少し含む
  5. 黄白色砂 締り強、粘性弱、
  6. 暗褐色土 4層に似る、5mm以下の砂礫やや多く含む
  7. 暗褐色土 締り強、粘性強、ローム土主体で粘土質



第21図 権現山遺跡第25地点溝1・2・木造遺構(1/60)

器高 4.6 cm。1/8 現存。色調暗青灰色。外面・内面は平滑に調整され、ロクロ水引き痕は内面の底面に僅かにうかがえる。胎土に 3~4 mm の石英と白色針状物質を含む。

16 は土師器環。いわゆる相模型環。口径 13.2 cm、器高 3.7 cm、底径 6.0 cm。口縁部は強い横ナデで、外湾した先端が尖り、体部下半には横方向のヘラ削りを連続的に施す。色調は黄色で微少な砂粒を混じる。

17 は土師器長胴甕。口径 20.5 cm、1/4 現存。口縁部先端を水平に小さく折り曲げて横ナデを加えたもの。胴部は縦方向のヘラ削り幅が 1 cm 前後と狭い。内面の横ナデの重なりが著しい。18 は台付甕。口径 12.6 cm、1/8 現存。19 は丸甕。口径 24.6 cm、口縁部は横ナデにより整形。口唇部は指でつまみ丸く整形。胴部は横位にヘラ削り。

20~22 は住居跡の覆土に混在した縄文式土器で繊維を含む黒浜式土器。20 は、緩い波状口縁の土器で、軸縄 RL に RI を付加した羽状縄文。21 は、Lr の無節縄文を横位に施文したもの。22 は RI 燃糸文か。

【炉穴出土土器】23~26 はいずれも無文で、23 は繊維を含み、24 には微量の繊維を含む。25・26 の器面には擦痕が見られる。早期末の土器。

【溝・遺構外出土の遺物】27~30 は、トレンチの 300 m 射場跡より出土したアルミ製プレートである。27 は「軍事秘密」、28 「軍事機密」、29・30 は「軍事極秘」の刻印が赤色に塗られている。29 と 30 は書体が異なる。27 は重さ 1.94 g で 187 枚、28 は重さ 1.93 g で 599 枚、29 は重さ 1.97 g、30 は重さ 2.14 g で合わせて 1208 枚である。判読不明は 306 枚が出土した。31 はいわゆる泥メンチ。完形。軍配と思われる。縦 2.8 cm、横 2.0 cm。厚さ 5 mm。重さ 3.2g。

32 は金属製品。銅製の筒形で上下の外径の太さには変化ない。完形。長さ 8.1 cm、外径 13.7 mm、内径 12 mm、重量 20.57g。機関銃弾の制作途上の未製品か。33 は磁器碗。見込「志木□ 秋元肥料店 元」文字。口径 8.4 cm、高さ 4.8 cm。

34 は磁器碗。透明釉に富士山他の絵柄が見られるが摩滅していて不明。底裏に赤色釉薬で「久谷」文字。高台欠。口径 7.8 cm、高さ 5 cm。

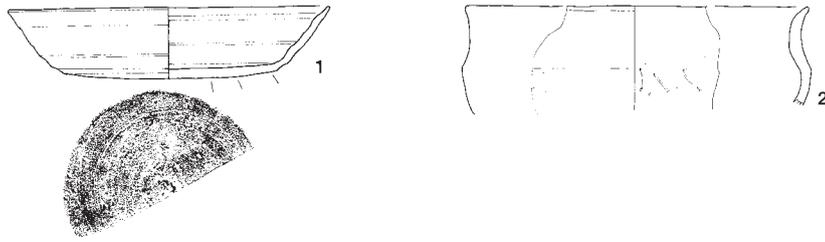
35 は磁器蓋。透明釉にクロムで二重線と「共」文字。口径 14.1 cm、高さ 6.7 cm で完形。

36 は金属製の小環。鶴文様。口径 6.3 cm、高さ 4.3

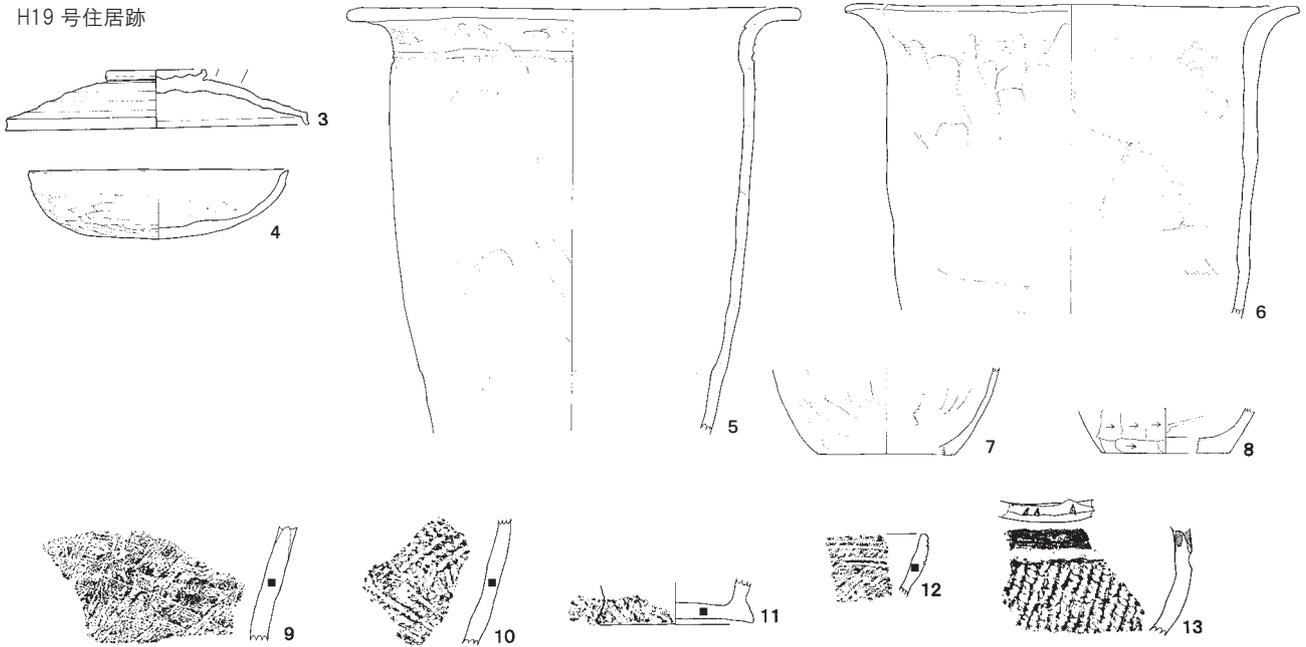
cm で完形、真鍮製か、重さ 86.78 g。

37 は銅とゴム部からなる「町野式水管接手」で、「(町野式) 専売特許第三六五四六号」の刻印がみられる。消防ポンプや消火栓のつぎ手である。重さ 552.6 g。

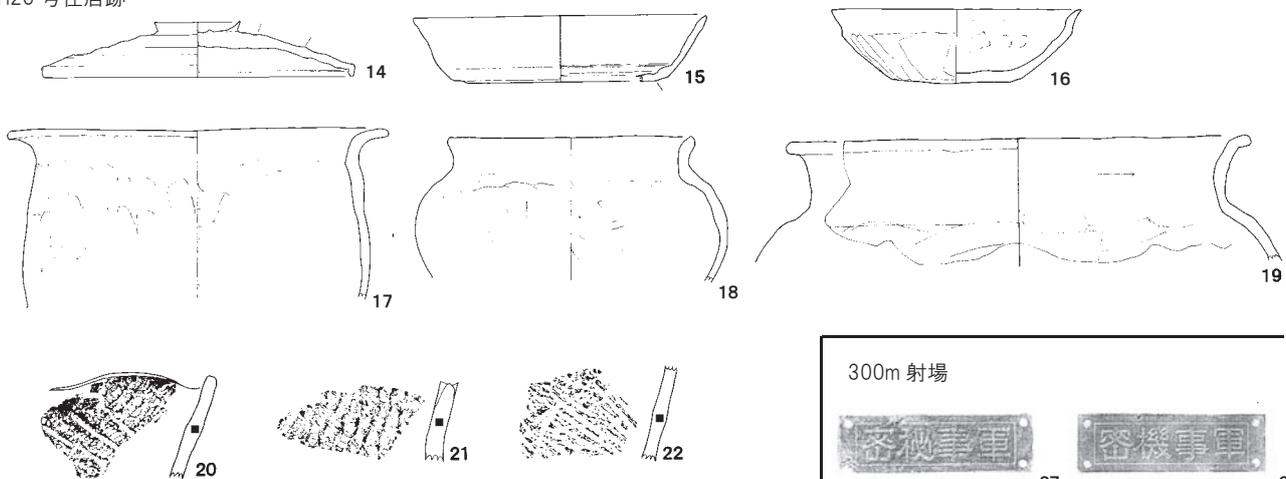
H18号住居跡



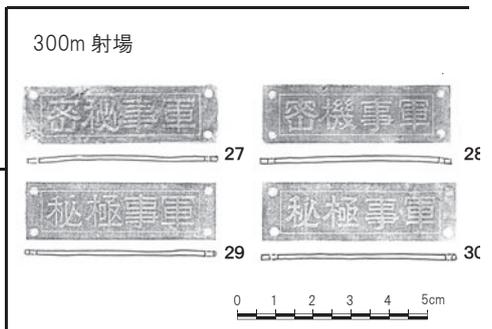
H19号住居跡



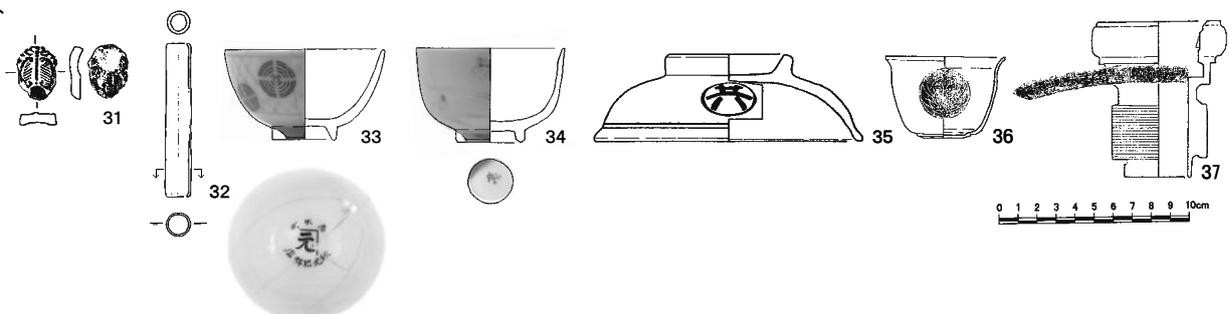
H20号住居跡



炉穴 2



遺構外



第22図 権現山遺跡第25地点 H18～20号住居跡・炉穴2・遺構外出土遺物(1/4)



権現山遺跡第 25 地点 H19・20 号住居跡全景



権現山遺跡第 25 地点 H19・20 号住居跡全景



権現山遺跡第 25 地点 H18 号住居跡試掘調査全景



権現山遺跡第 25 地点 H18 号住居跡土層



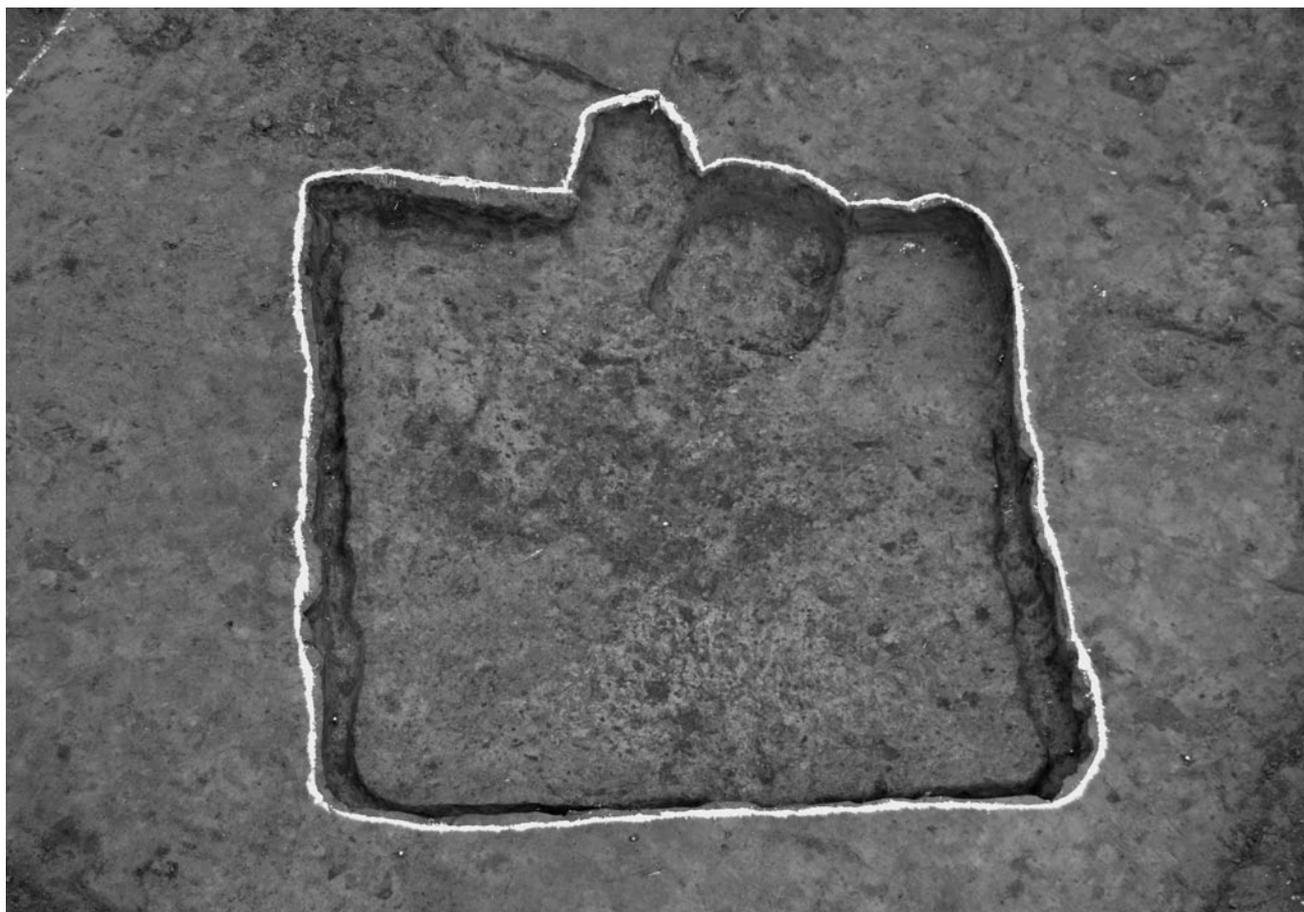
権現山遺跡第 25 地点 H19・20 号住居跡試掘調査全景



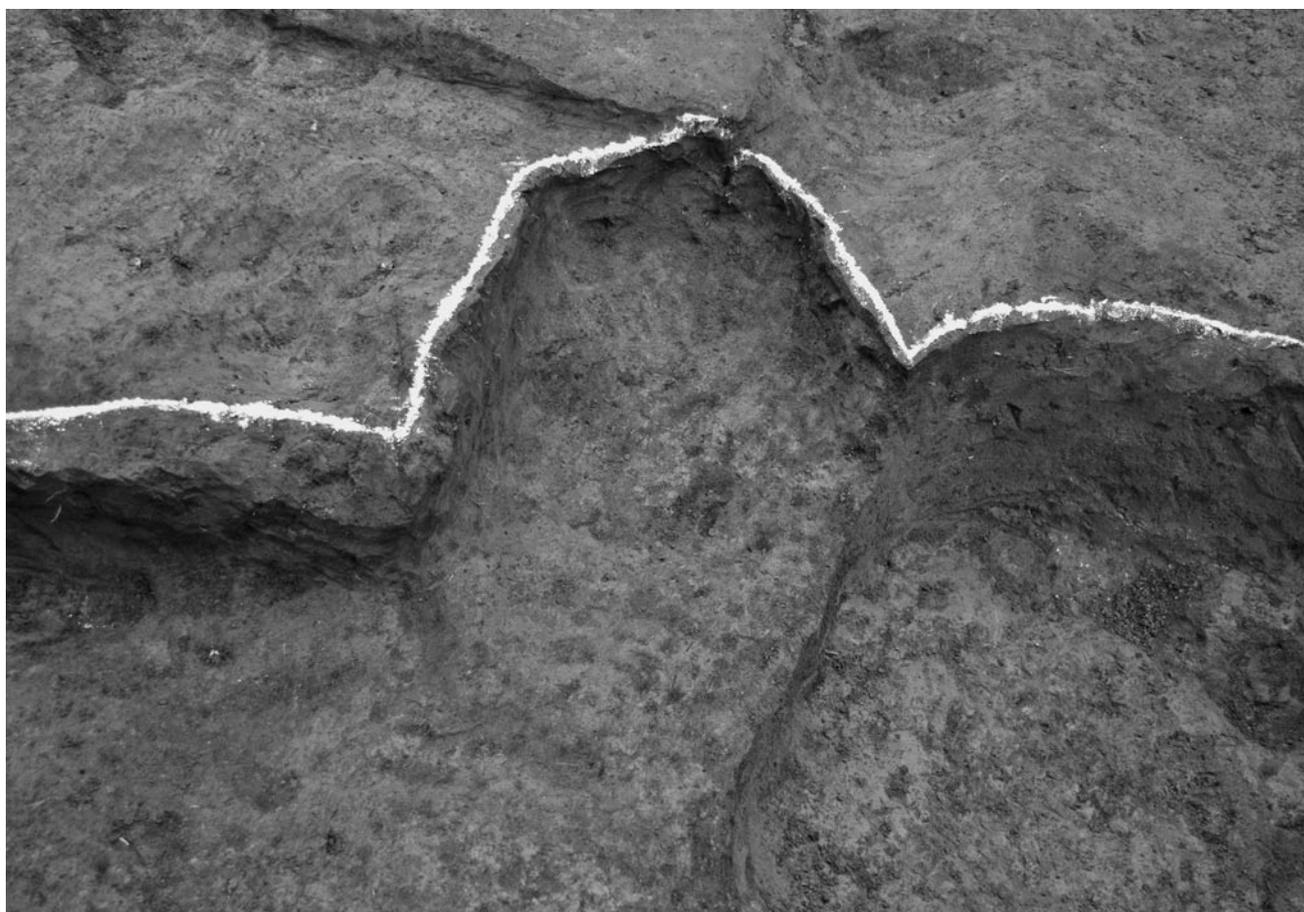
権現山遺跡第 25 地点 H19・20 号住居跡試掘調査全景



権現山遺跡第 25 地点 H19・20 号住居跡試掘調査全景



権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡全景



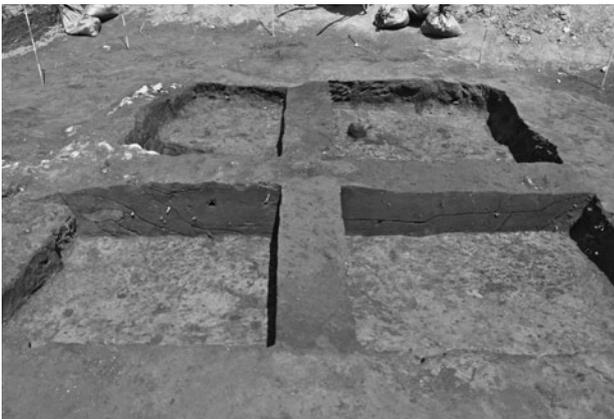
権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡竈



権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡遺物出土状況



権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡遺物出土状況



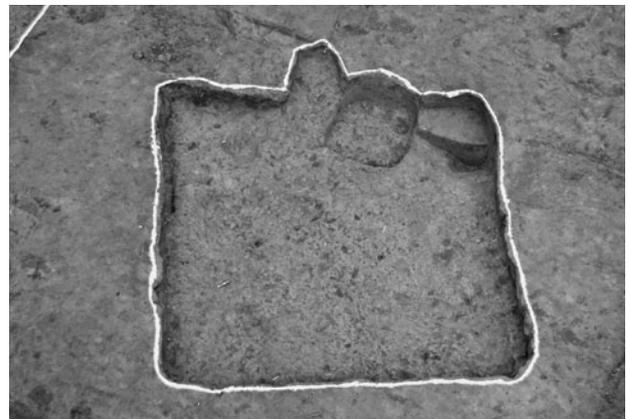
権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡土層



権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡土層



権現山遺跡第 25 地点 H19 号 4 住居跡竈土層



権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡掘方



権現山遺跡第 25 地点 H19 号住居跡竈土層



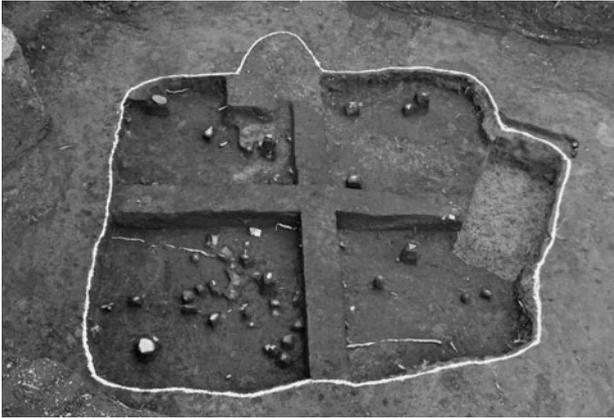
権現山遺跡第 25 地点調査風景



権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡全景



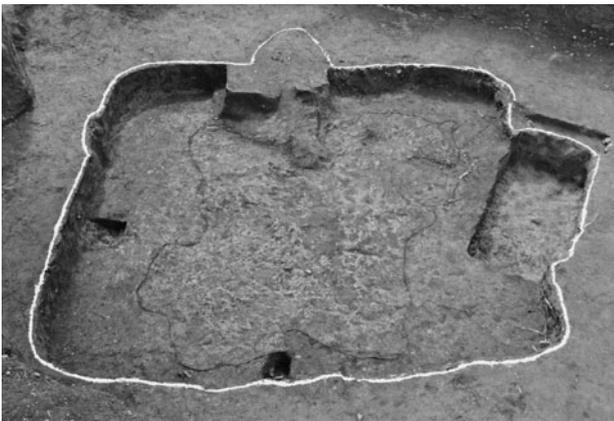
権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡竈



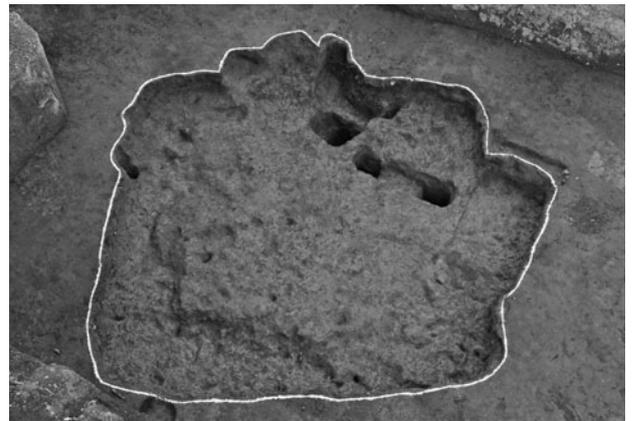
権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡遺物出土状況



権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡遺物出土状況



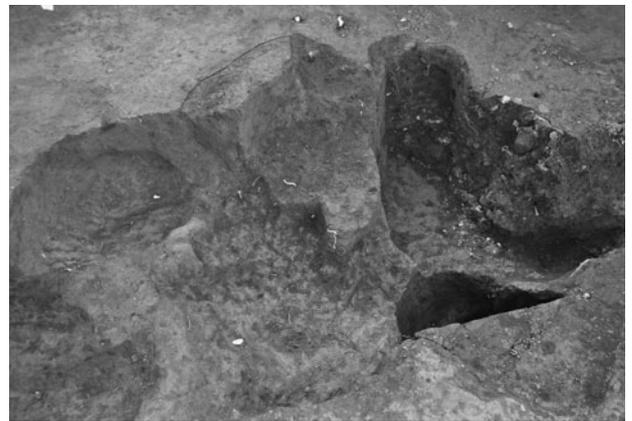
権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡貼床



権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡掘方



権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡竈土層



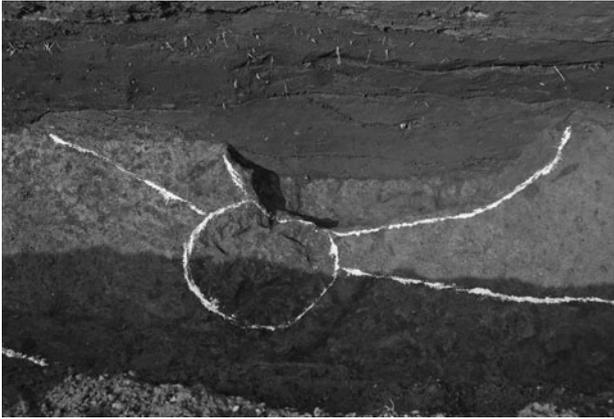
権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡竈



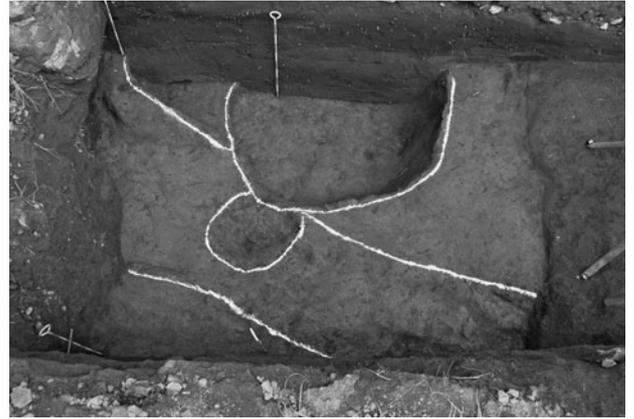
権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡焼土



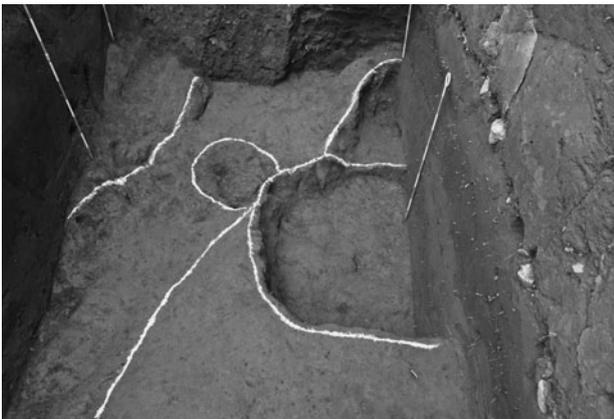
権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡ピット 2



権現山遺跡第 25 地点炉穴 1・2・土坑



権現山遺跡第 25 地点炉穴 1・2・土坑



権現山遺跡第 25 地点炉穴 1・2・土坑



権現山遺跡第 25 地点溝 2



権現山遺跡第 25 地点溝 2



権現山遺跡第 25 地点 (300m 射場)



権現山遺跡第 25 地点 (300m 射場)



権現山遺跡第 25 地点遺物出土状況 (300m 射場)



権現山遺跡第 25 地点火工廠遺構



権現山遺跡第 25 地点火工廠遺構 (トレンチ 13)



権現山遺跡第 25 地点火工廠遺構 (トレンチ 2)



権現山遺跡第 25 地点火工廠遺構 (トレンチ 9)



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点調査風景



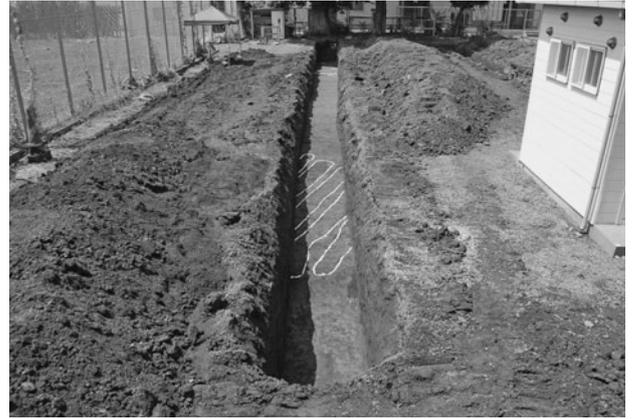
権現山遺跡第 25 地点トレンチ 1 全景



権現山遺跡第 25 地点トレンチ 13 全景



権現山遺跡第 25 地点トレンチ 15 全景



権現山遺跡第 25 地点トレンチ 20 全景



権現山遺跡第 25 地点トレンチ 14 全景



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点試掘調査風景



権現山遺跡第 25 地点炉穴 1・2 調査風景



権現山遺跡第 25 地点 H20 号住居跡調査風景



権現山遺跡第 25 地点調査風景 (博物館学実習)



権現山遺跡第 25 地点調査風景 (博物館学実習)



権現山遺跡第 25 地点調査風景 (資料館縄文土器作り)



権現山遺跡第 25 地点調査風景 (資料館縄文土器作り)

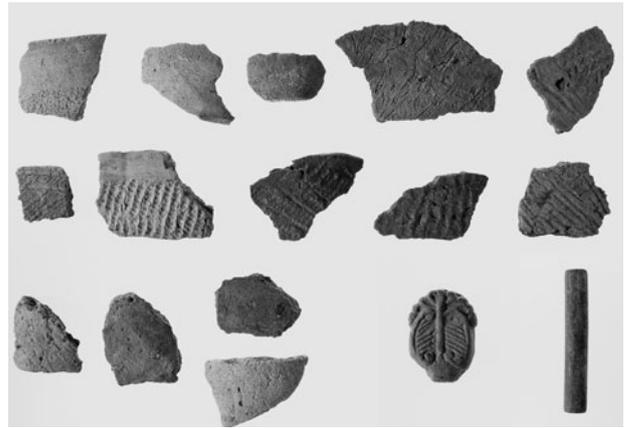
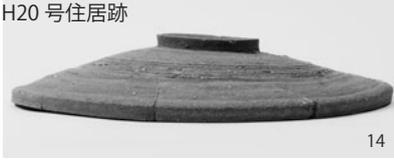
H18 号住居跡



H19 号住居跡



H20 号住居跡



H18 ~ 20 号住居跡、炉穴 2、遺構外出土遺物 No.2・7 ~ 10・12・13・20 ~ 22



権現山遺跡第 25 地点 300m 射場跡出土遺物



権現山遺跡第 25 地点試掘調査トレンチ出土遺物



権現山遺跡第 25 地点整理作業



権現山遺跡第 25 地点整理作業